

逍遙館長のところ

「敗れ、滅びてなお語りかける、のころ」

10月23日 逍遙逍遙

今日10月23日は、朝鮮をめぐる新政府内の激しい対立から、西郷さんが参議を辞して鹿児島に帰った日です。そもそも8日前に、西郷の朝鮮派遣が再度閣議決定されたにも関わらず、直後、太政大臣・三条実美の突然の「癡病」と反対派の大久保、岩倉らの宮中工作による大どんでん返しました。

これをきっかけに、廃藩置県や秩禄処分、徴兵令等によって失業した士族たちの不満が爆発し、3年後の同じく10月には、熊本で神風連の乱、福岡で秋月の乱、山口で萩の乱と相次いだものの、佐賀の乱や西南戦争も含め、いずれも敗北、「サムライの時代」は名実ともに終焉を迎えたのでした。

いつの時代も、「政策」が纯粹にそれのみで語られる、ということは稀。熾烈な権力闘争と意図的な分断策などを経て生き残った「体制」の歴史の狭間で、心ならずも滅び消え去っていった、言葉なき先人達の魂の遺産に、今一度思いを馳せてみるのも、黎明館的な10月の過ごし方の一つなのでは。

◎次回の予定「三国志・赤壁の戦いと11月のころ」

